

私とラジオ

牧野篤史

「コーセー化粧品 歌謡ベストテン」。

私の最も古い記憶の中のラジオ番組である

団地住まいには分不相応な ONKYO のステ

レオから流れる音。「ラジオ」が何であるの

かもよくわかっていなかった少年牧野は、毎

週土曜日、お昼で学校から帰ってきて、母が

作るチャーハンなどを食べながら毎週聞いて

いた。その後、「ラジカセ」が家にやってき

て、番組から流れる曲をテープに録音してい

く。曲の初めから終わりまで綺麗に録音でき

た時の喜び。録音中に▶面が終わってしまっ

た時の残念さ。小さな思い出が蘇る。

そのままラジオを聴くことは日常となり、

中学時代にはそのラジカセを使って自分でラ

ジオ番組を作り、高校ではお昼の放送で今と

変わらないワンマンスタイルの番組をやり始

めた。ラジオがあるのが私にとっての日常。

ラジオがなかったら、今の自分はない。  
「音」だけが伝えるパワー、思い。これか  
らも私はラジオと共にありたい。老人牧野に  
なっても。